

WAVE SPECIAL EDITION



2025年6月5日発行
大阪成蹊大学
びわこ成蹊スポーツ大学
大阪成蹊短期大学
大阪成蹊女子高等学校
大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

学園広報誌 | 特別号 |

大阪成蹊学園

学校法人大阪成蹊学園 北本 暢 理事長就任ごあいさつ

さらなる発展と改革をめざして

[北本 暢 理事長の経歴]

1982年中京大学体育学部を卒業し、同大学院法学研究科社会人大学院を修了。立命館大学・立命館アジア太平洋大学 副局長等、中京大学 大学事務局長、法人事務局長、専務理事等を歴任。2019年より帝塚山学院大学で理事・副学長をつとめたのち、2023年より学校法人大阪成蹊学園 理事長補佐、専務理事、副理事長を経て、2025年4月に理事長に就任。



このたび、大阪成蹊学園 理事長に就任いたしました北本でございます。大阪成蹊学園は、1933年の創立から92年という歴史を歩み続け、約14万人の卒業生を輩出してまいりました。現在では、2つの大学と大学院、短期大学、高等学校、幼稚園において、約8,000名の学生・生徒・園児が在籍する総合学園として成長いたしました。その歴史の中では厳しい経営状況の時代も経験いたしましたが、2010年に石井前理事長が着任後、約15年間にわたり「学園パラダイム改革」の実践においてみずから率先垂範され、教学、法人経営の両面において改革の手腕を発揮されました。このことは、現在の法人規模や教育施設・設備の充実、高い学生満足度として評価をいただいております。その素晴らしい到達点は学園の歴史に永く刻まれることでしょう。

さて、私自身は、40年以上にわたり、大学行政・学校法人経営のゼネラリストとして、大学の開学や学部の開設、学校法人の分離・合併、大学の教学改革、法人の財政改革など、学校法人の運営における様々な任務に多角的に携わってまいりました。それらの経験から培ったものは「改革なく

して発展なし」というマインドです。石井前理事長が、15年間に築き上げられた長期的発展の礎の上に、「不断の改革」を実行し、学園の持続可能な発展に向けてさらに新しいステージへと飛躍させることが私の使命と考えております。

ご存知のように、昨今加速する少子化や経済状況の影響等により、大学や高等学校など教育機関を取り巻く環境が年々厳しさを増してきていることは言うまでもありません。これからの数年間は、本学が持続可能な発展をめざす上できわめて重要な期間です。大阪成蹊大学では、2022年に国際観光学部、2023年にデータサイエンス学部、看護学部を続けて開設し、文・理・芸の学びを備えた総合大学へと進化してまいりました。2027年には新たに「経済学部(仮称)」を開設するとともに、駅前キャンパスに新校舎を建築することを構想しております。そのほか既存学部の入学定員増も含め、時代のニーズをとらえた学びの拡充、学修環境の整備に向けた準備を進めております。こうした新たな施策とあわせて、学園内各校間の連携を深めることで有機的な価値を

生み、多くの学生・生徒が集う、そうした正のスパイラルを生み出していきたいと考えております。来たる学園創立100周年、そしてその先に新たな学園の未来を創造すべく、全力を傾注して任にあたりたいと思います。

学生・生徒の皆さん。今、あなた達が生きる世界では、多種多様な価値観が交差し、AIなどを筆頭に様々な技術が加速的に進化し、暮らしや社会のあり方に根源的な変化をもたらしています。これまでの常識が通用しない新時代を、いかにしなやかに、力強く生き抜くのか。そのためには、専門的な知識を修得するだけではなく、「大阪成蹊学園LCD教育」で掲げているリテラシー、コンピテンシー、ディグニティを身につけていくことが必要不可欠です。建学の精神「桃李不言下自成蹊」を常に心に留め、人から慕われ、信頼される「人間力」のある人をめざしてください。

これまで本学にいただきました皆様方のご支援、ご厚情に深く感謝を申し上げます。引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。今後さらに発展・成長する大阪成蹊学園の未来に、ぜひご期待ください。

大阪成蹊大学

大阪成蹊大学「経済学部(仮称)」設置構想中

「文・理・芸」の多彩な学部をもつ大阪成蹊大学では、令和9(2027)年4月に、7つ目の学部となる「経済学部(仮称)」の開設を構想しています。既存の経営学部や国際観光学部とともに社会科学系の学びをさらに拡充し、幅広い経営・経済の学びが可能となります。

経済学部では、「現代経済」「情報戦略」「公共経済・政策」の3つの分野を軸に、多様なテーマについての学びを展開します。また、経済学と心理学が融合した学問と言われる注目の分野「行動経済学」を重点的に学ぶ、特色あるカリキュラムを予定しています。

大阪成蹊大学の
経営・経済の学びが
進化する

2027年4月 大阪成蹊大学に
経済学部、誕生。

仮称・設置構想中

※仮称・設置構想中。計画内容に変更が生じる可能性があります。

2026年度入試のおもなポイント (大阪成蹊大学)

大阪成蹊大学では、2026年度入試においても改革を実施し、特徴のある入学試験を実施します。

1. 全学部で総合型選抜入試に連続日程を新設
2日間の日程で、受験チャンスを拡大
2. 総合型選抜入試の資格加点制度が全学部拡充
英語系・商業系・情報系など約40種類の資格・検定が対象
3. 学外試験会場として新たに福岡会場を実施
受験者の出身エリアの広域化により
4. 他学部併願制度を設定
追加検定料不要で、2学部同時出願可能
5. データサイエンス学部で文系受験型を設定
公募推薦入試・一般選抜入試が対象
6. データサイエンス学部で女子特別枠を設定
総合型選抜入試・公募推薦入試が対象
7. データサイエンス学部で本学独自の奨学金制度
第4期入学生全員と成績優秀者が対象
8. 芸術学部の公募推薦入試にアートコンペ型*を新設
受賞者には受賞項目に応じて加点
9. 芸術学部に学部特別奨学金を設定
総合型選抜入試と公募推薦入試(専願)の合格者が対象

詳細は、2026学生募集要項をご参照ください

*大阪成蹊全国アート&デザインコンペティション

大阪成蹊学園 15年間の軌跡



大阪成蹊学園は1933年に創立され、今年で92年目を迎えます。
2010年に石井茂総長が着任されてからの15年間は、本学園にとって大きな転換期となりました。少子化の加速により18歳人口が減少し、教育機関を取り巻く環境が厳しさを増す時代において、キャンパスの

整備拡充や、時代のニーズをとらえた学部・学科やコースの開設、組織的な教学改革の取り組みなどにより常に新しいステージを生み出し続け、大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学を中心に、幼稚園から大学院まで約8,000名の学生・生徒が

学ぶ総合学園へと発展いたしました。
ここでは、これまでの15年を振り返り、石井茂総長のもと推進されてきた様々な改革とその成果をご紹介します。
大阪成蹊学園 企画統括本部



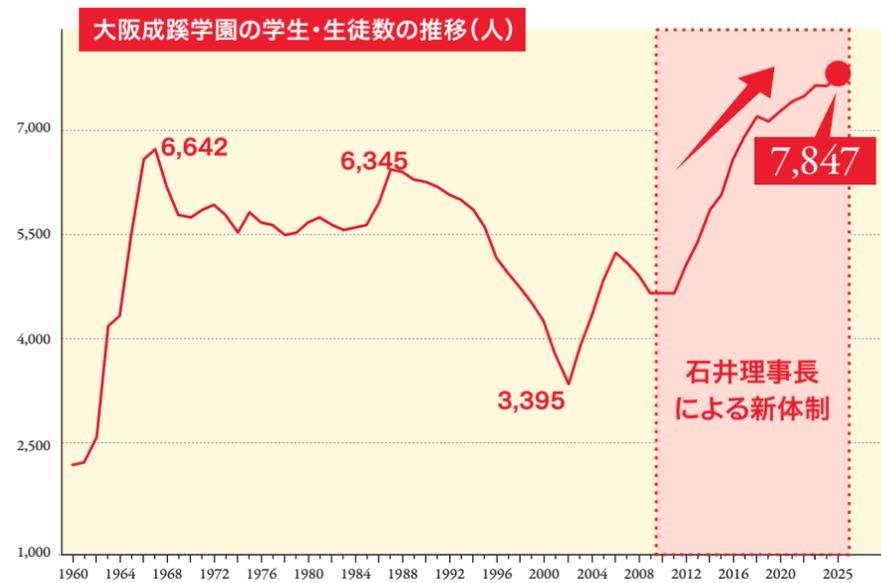
[石井 茂 総長の略歴]

- 1990年～ 株式会社関西銀行(現 関西みらい銀行) 人事部長、取締役 企画統括部長を歴任
- 2005年 株式会社関西アーバン銀行(現 関西みらい銀行) 代表取締役 副頭取
- 2010年4月 学校法人大阪成蹊学園 理事長
- 2011年4月 学校法人大阪成蹊学園 理事長・大阪成蹊大学 学長
- 2013年4月 学校法人大阪成蹊学園 理事長・総長
- 2025年4月 学校法人大阪成蹊学園 総長



Topics 1 在籍者数・入学者数の増加

日本の18歳人口が減少する中、本学園の入学者・在籍者は15年間で大きく増加しています。大阪成蹊学園全体では、2009年度から2025年度にかけて入学者・在籍者ともに約1.7倍に増加、大阪成蹊大学では、入学者数が約5.2倍、在籍者数が約3.1倍に増加しました。また大阪成蹊大学では2014年度には169校の高校からの入学がありましたが、2025年度には760校以上の高校から入学者が集まっています。



Topics 2 利便性の高い相川の地へキャンパスを統合し、教育環境を整備・充実

約190億円の新規投資を実施

【主な設備投資】

校舎建築	年	内容
	2011	相川キャンパス 芸術学部 美術アトリエ棟
	2016	大阪成蹊女子高校 デザイン棟
	2017	びわこキャンパス 中央棟
	2017	大阪成蹊女子高校 美術棟
	2018	相川キャンパス グローバル館
	2021	大阪成蹊女子高校 音楽棟
	2022	駅前キャンパス South館
	2026~	駅前キャンパス「West館(仮称)」予定

京都府長岡京市に位置していた大阪成蹊大学 芸術学部を2012年に相川キャンパスに移転統合し、大阪梅田から約14分と利便性の高い相川の地にキャンパスを集約。

そして学園全体の教育環境を整備・充実するため、約190億円の設備投資を実施(計画中の駅前キャンパスWest館(仮称)を含む)。活気ある明るいキャンパスへ。

教育環境の整備	年	内容
	2009	びわこキャンパス 大野球場・テニスコート建築
	2010	相川キャンパス 食堂・正門・中庭改修
	2016	びわこキャンパス サッカーグラウンド改修
	2016	びわこキャンパス フットサルコート造成
	2024	相川キャンパス 芸術学部 南館増築



2010年
相川キャンパス
正門・中庭・食堂 改装



2017年
びわこキャンパス
中央棟 竣工



2019年
相川キャンパス
グローバル館 竣工



2023年4月
阪急京都線
相川駅より徒歩2分の
『駅前キャンパス』を開設

Topics 3

特色ある多彩な学びを拡充

2009年度当時「22」種類だった学びの分野が、
2026年度には「52」に増加。
入学定員は1,710名から2,125名(+415名)、
収容定員は5,130名から7,450名(+2,320名)へ。

2009年度	2026年度
大阪成蹊大学 現代経営情報学部 芸術学部 美術学科 環境デザイン学科 情報デザイン学科 2学部 入学定員 420名	6学部・大学院 経営学部 芸術学部 教育学部 国際観光学部 データサイエンス学部 看護学部 大学院 経営学科(5コース) スポーツマネジメント学科 造形芸術学科(8コース) 教育学科(2専攻/4コース) 国際観光学科(3コース) データサイエンス学科(3コース) 看護学科 教育学研究科 入学定員 985名(+565名)
びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部(7コース) 1学部 入学定員 270名	1学部・大学院 スポーツ学部 大学院 スポーツ学科(3領域/8コース) スポーツ学研究科 入学定員 370名(+100名)
大阪成蹊短期大学 総合生活学科 観光学科 児童教育学科 表現文化学科 経営会計学科 5学科 入学定員 690名	4学科 生活デザイン学科 調理・製菓学科 栄養学科 幼児教育学科 アパレル・ファッションコース イラスト・アニメ・デザインコース 調理コース 製菓コース 高度調理・製菓技術専攻科(仮)※構想中 入学定員 300名 ※専攻科除く
大阪成蹊女子高等学校 普通科(5コース) 1学科 入学定員 240名	2学科 普通科 美術科 総合キャリアコース、特進コース 看護医療進学コース、英語コース 幼児教育コース、音楽コース スポーツコース アート・イラスト・アニメーションコース 入学定員 400名(+160名)

Topics 4

教育の質保証のための体制整備

建学の精神「桃李不言下自成蹊」にあらわされるような「人間力」のある人材の育成を目的とし、「大阪成蹊学園LCDプログラム」を構築。さらに組織と会議体のありかたを抜本的に見直し、教学マネジメント体制を整備。

「人間力教育」を展開

2018年より、知識・実践力・品格を養う「LCD教育プログラム」を展開。

大阪成蹊学園LCD教育プログラム



教学改革会議をはじめとする体制の確立

教職協働で一体感をもって知恵を出し合い、発展をめざす「経営集団・教育集団」を確立。240人超の教職員が参加する21のプロジェクトチームを中心に全学で「教学改革」を推進し、創設以来10年間で約130回の会議を開催。



教育改革プロジェクト一覧 ※2025年5月現在

- 英語・グローバル教育の充実
- 初年次教育・キャリア教育を核とする全学教育の実現
- 全学的なAI・数理・データサイエンス教育の構築と学内DXの推進
- 学修成果の可視化
- 産・学・地の連携による教育研究の充実
- 全学的なアクティブラーニングの推進
- インターンシップ制度の充実
- 専門演習(ゼミ)、卒業研究・卒業制作の充実
- 高大接続改革の実現
- シラバスの一層の充実
- 適切な成績評価の実施
- 授業評価アンケートの活用
- ラーニングコモンズの活性化
- 教員表彰制度の充実
- パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトの推進
- 教学IRの充実
- 体系的なFDプログラムの展開
- 学修成果を発揮する各種大会・コンペティションの充実
- 教育総合改革プロジェクトの設置と改革推進強化
- 学生の成長実感の向上を図る課外活動・イベント等の充実
- 教学改革成果等の学外発信強化

1

リテラシー

(知識を活用して課題を解決する力)を構成する要素



2

コンピテンシー

(自分を取り巻く環境に実践的に対処する力)を構成する要素



3

ディグニティ

(徳、品格、品性)を構成する要素



Topics 5

学生の活躍をバックアップ

企業や自治体と連携した取り組みや、各種大会など学生が活躍できる機会を豊富に創出。さまざまな分野において各学部・学科の学生が成果を挙げています。



「日本パッケージデザイン学生賞」大賞ほか受賞(大阪成蹊大学 芸術学部)

株式会社ローソンと商品を共同開発(大阪成蹊大学 経営学部)



JR吹田駅前の活性化企画で最優秀賞を受賞(大阪成蹊大学 経営学部)



教員採用試験現役合格率73.7%を達成(大阪成蹊大学 教育学部)
【参考】自治体発表合格率
大阪府 37.4%、大阪市 47.4%



卒業生が料理コンクールで大阪府知事賞を受賞(大阪成蹊短期大学 調理・製菓学科)

クラブの活躍

2012年に「スポーツ&カルチャーセンター」を開設し、「強化指定クラブ」を作り、学園のスポーツと文化の活動を積極的に支援。

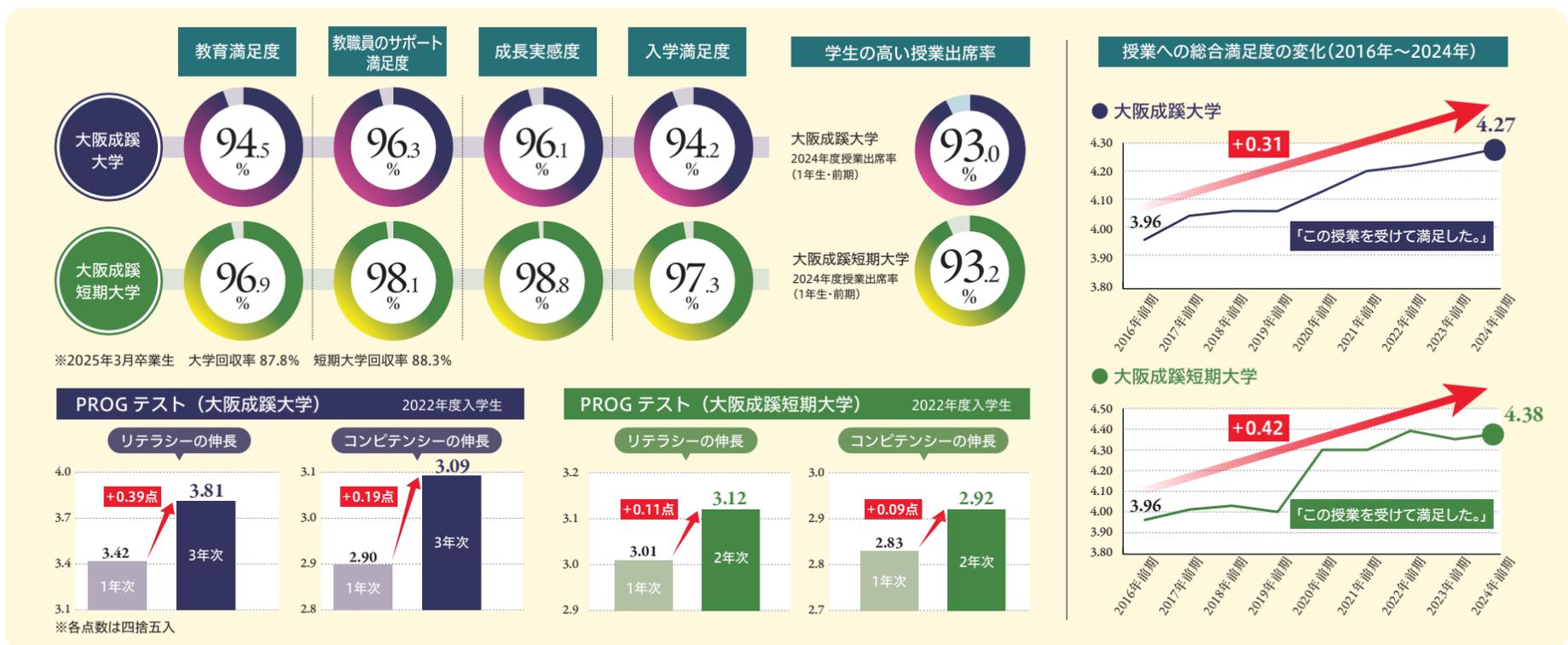
女子陸上競技部 <ul style="list-style-type: none"> ●2020東京オリンピック 4×100mR出場(2021年) ●第39・40回U20 日本陸上競技選手権大会 U20女子400mハードル 2連覇(2023年・2024年) ●リマ2024 U20世界陸上競技選手権大会出場(2024年) 	<p>(写真提供:月刊陸上競技)</p>	卓球部 <ul style="list-style-type: none"> ●第93回全日本大学総合卓球選手権大会 団体の部 男女とも全日本インカレ出場(2024年) ●令和6年度関西学生卓球春季リーグ戦 男子団体 2部優勝 1部昇格(2024年) ●第66回関西学生卓球新人大会 女子シングルス 優勝(2024年) 	
フットサル部 <ul style="list-style-type: none"> ●全日本大学フットサル大会 大阪府大会 10連覇(2015年～2024年) ●全日本大学フットサル大会 3連覇(2022年～2024年) ●「LUXPERIOR CUP 地域大学フットサルチャンピオンズリーグ2024-2025」優勝 2024年度大学フットサル2大タイトルを獲得 	<p>関西学生リーグ1部</p>	コーラス部 <ul style="list-style-type: none"> ●第17回 声楽アンサンブルコンテスト 全国大会 高校・大学ともに銀賞を獲得(2024年) ●第91回NHK全国音楽学校コンクール大阪大会 大阪成蹊女子高等学校コーラス部 金賞・近畿ブロックコンクール 銀賞(2024年) ●第79回関西合唱コンクール 大阪成蹊女子高等学校コーラス部 高等学校の部 Aグループ 金賞 大阪成蹊大学・短期大学コーラス部 金賞(2024年) 	
男子サッカー部 (びわこ成蹊スポーツ大学) <ul style="list-style-type: none"> ●第63回全日本大学サッカー選手権大会3位(2014年) ●第95回関西学生サッカーリーグ 優勝(2017年) ●第46回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 3位(2022年) ●通算25名の「Jリーガー」を輩出 	<p>(写真提供:Nozomi FUJITA)</p>	吹奏楽部 <ul style="list-style-type: none"> ●第50回大阪府アンサンブルコンテスト 大学部門 管楽7重奏 銀賞(2023年) ●第63回大阪府吹奏楽コンクール 金賞(2024年) 	

Topics 6

改革の成果

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学ともに、卒業時満足度アンケートでは約95%の学生が成長を実感し、「この大学に入ってよかった」と回答。

また、入学時と在学時の2回に分けて実施する「PROGテスト」でもリテラシー・コンピテンシーの伸長が確認され、多くの学生から「成長が実感できる大学」として評価されています。



大阪成蹊学園 15年間の発展・拡充に寄せて ～石井 茂 総長と共に歩んできた教員からのメッセージ～



大阪成蹊大学 門脇 英純 副学長

15年にわたり石井前理事長・総長が主導された改革は、「学びの質をどう高めるか」という問いに一貫して取り組んできたものです。教育カリキュラムの再設計や教育環境の整備に加え、全教職員との面談を通じた丁寧な対話が、組織全体に使命感と共通認識をもたらしました。さらに、学生支援体制の強化や日々の授業改善を重ねることで、学生一人ひとりの主体的な学習を後押しする基盤が築かれつつあります。こうした取り組みが教職員の意識変革にもつながり、教育の質そのものが着実に高まっています。

私たちは今後も、学生が人生で最も成長できるこの4年間を確かな手応えと実感をもって過ごせるよう、建学の精神を軸に、真正面から学生と向き合う教育を続けてまいります。



大阪成蹊短期大学 幼児教育学科 榊原 志保 学科長

石井前理事長・総長が学園改革に取り組みられてきた15年間で振り返るとき、改革を進めるご自身の信念を様々な機会をとらえて語られてきた言葉の数々が思い起こされます。それらを今思い出すとき、すべてはシンプルに「教育に本気の学園」「学生の成長に本気の学園」への変革を求め、推進する言葉であったと実感しています。環境の充実、そして取り組むべき課題の明確化と改善努力の蓄積を基盤とする教育内容の充実が、学生に変化をもたらし、その姿を目の当たりにする教職員の意識を変えてきました。学生一人ひとりがもつそれぞれの伸びしろを最大限に伸ばすことに本気で取り組む学園の一員として、建学の精神にも通じる「他者理解をすべての基本」として、これからも努めてゆきたいと思っています。

●本誌に掲載の情報(個人の学年、所属、肩書き等を含む)は全て取材時のもので、発行時とは異なる場合があります。